

事務事業名	もおか環境パートナーシップ会議支援事業				担当	産業環境部 環境課 環境計画係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8241		
施策名	4	自然環境の保全と保護			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	真岡市環境基本計画					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成17年度～）		
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	4. 環境衛生費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<p>平成17年2月に策定した「真岡市環境基本計画」にリーディングプロジェクトとして位置づけられた事業であり、市民・事業者・市の協働による環境保全活動を実践していくため平成18年2月に組織された。</p> <p>【主な活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然ふれあい園“大久保”を市民の憩いの場所となるよう、企業や個人のボランティアの協働により保全管理している。 2 とちぎの元気な森づくり事業による里山の整備を行っている。 3 地球温暖化防止など環境を守ることの大切さを知るため、親子を対象とした環境学習会を開催している。 4 ごみの不法投棄やレジ袋の削減など身近な環境問題を取り上げたエコレポーター活動を行っている。 5 市民への情報発信等のため、会報紙を発行している。 							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

<p>① 手段（主な活動）</p> <p>26年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会への交付金支給（運営交付金80万円） ・会議等の開催準備や会計事務（会の事務局） ・事業の日程調整 ・会員申込受付 ・自然ふれあい園大久保の保全管理（一部、管理困難な場所等については、シルバー人材センターに委託） <p>27年度計画 平成26年度と同様</p>	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)
	ア	会議等開催数	回	18	20	17	17	17
	イ	活動日数	日	72	70	65	65	65
	ウ							
<p>② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もおか環境パートナーシップ会議 ・自然ふれあい園大久保 	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)
	ア	ボランティア登録者数	人	115	117	98	95	100
	イ	ボランティア登録団体数	団体	15	15	14	13	13
	ウ	自然ふれあい園大久保の面積	ha	約3	約3	約3	約3	約3
<p>③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業者、市の協働による環境保全活動を継続していくことで、自らの責任で大切な自然を守るといった市民を増やしていく。 ・自然ふれあい園大久保の自然環境を良好に保全する。 	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)
	ア	ボランティア活動の参加者数	人	延べ766	延べ731	延べ592	延べ597	延べ600
	イ	環境学習会への参加者数	人	約80	約80	約80	約80	約80
	ウ	自然ふれあい園大久保の管理されている面積	ha	約3	約3	約3	約3	約3
<p>④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然を次の世代に引き継いでいく。 ・環境に対する意識の高揚を図る。 	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)
	ア	自然環境保全活動に参加した市民の割合	%	4.8	3.1	4.8	14.6	15
	イ	緑などの自然環境が良いと思う市民の割合	%	86.2	86.1	87.3	86.9	87
	ウ							

(2) 総事業費の推移		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円				
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	768	130	130	80
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	800	800	800	800	
	事業費計(A)	千円	1,568	930	930	880	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	1,274	1,274	1,274	1,274
		人件費計(B)	千円	5,404	5,353	5,178	5,378
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,972	6,283	6,108	6,258	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成17年2月に策定した「真岡市環境基本計画」にリーディングプロジェクトとして位置づけられたことによる。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全や地球温暖化防止、省エネルギーなどへの関心は高まっている。 ・自然ふれあい園“大久保”は整備され、周辺住民や幼稚園等が散策や野鳥観察などに訪れている。また、東側の森林は明るく安全な里山林へと再生された。 ・平成23年2月に改訂された環境基本計画においても、リーディングプロジェクトとして取り組む事業に引き続き位置づけられた。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	ボランティア活動の参加者からは、自然の再生のため長期的な活動をしていきたいということや、市民の誰もが楽しんでもらえる場所となるよう整備していきたいとの声がある。また、野外レクリエーションとして楽しみながら活動に参加している。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民・事業者・市の協働による環境保全の実践は、活動に参加する市民を増やし、豊かな自然を守ることにつながるから結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市の環境基本計画のリーディングプロジェクトに位置づけされていることから妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 自らの責任で大切な自然を守るという市民や事業者を増やすことになることから適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 市民・事業者・市の協働による環境保全活動を実践しており、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・市民と協働のまちづくりの停滞となる。 ・市民の環境保全に対する意識が低下する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の経費であり、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の人件費であり、削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民全体を対象としたものであり、公平、公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							